

## 図チャレ 第13回 (2002年10月)

- (1) 凸多角形  $P$  の内部に円  $C$  があるとき,  $P$  の周は  $C$  の周より長いことを示せ。  
 (2) 円  $C$  の内部に凸多角形  $Q$  があるとき,  $C$  の周は  $Q$  の周より長いことを示せ。

解答

- (1) 円  $C$  の中心  $O$  と  $P$  の各頂点を線分で結び,  $O$  を頂点とする三角形に分割して考えることにより,  $P$  の隣り合う2頂点  $A, B$  に対して辺  $AB$  が  $\angle AOB$  内にある  $C$  の円弧より長いことを示せばよい。

辺  $AB$  に平行な  $C$  の接線と線分  $OA, OB$  との交点をそれぞれ  $A', B'$  とすると,

$$AB \geq A'B'$$

線分  $A'B'$  と円  $C$  の接点を  $T$  とし,

$$\angle A'OT = \alpha, \quad \angle B'OT = \beta$$

とおけば, 円  $C$  の半径を  $r$  として

$$A'B' = r(\tan \alpha + \tan \beta), \quad (\text{弧長}) = r(\alpha + \beta)$$

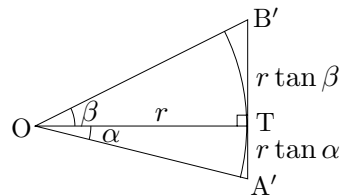
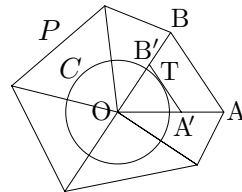
ここで,  $\triangle OA'B'$  と扇形の面積を比べると,

$$\frac{1}{2}r(\tan \alpha + \tan \beta) \times r > \frac{1}{2}r^2(\alpha + \beta)$$

$$\therefore AB \geq A'B' = r(\tan \alpha + \tan \beta) > r(\alpha + \beta)$$

以上より,  $P$  の周が  $C$  の周より長いことが示された。

(おわり)



- (2)  $n \geq 4$  として,  $Q$  の連続する4頂点を  $A_1, A_2, A_3, A_4$  とする。

(i) 辺  $A_1A_2$  の  $A_2$  の側への延長と辺  $A_3A_4$  の  $A_3$  の側への延長が  $C$  の内部または周上に交点  $A$  をもつとき, 三角不等式より

$$A_2A_3 < A_2A + AA_3$$

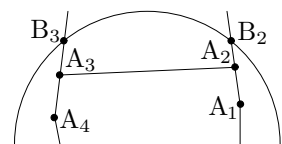
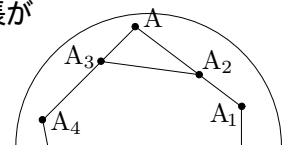
であるから,  $n - 1$  の場合に帰着される。

(ii) 交点  $A$  が  $C$  の外部ある, または交点  $A$  が存在しないとき, 辺  $A_1A_2$  の  $A_2$  の側への延長と  $C$  の交点を  $B_2$ , 辺  $A_3A_4$  の  $A_3$  の側への延長と  $C$  の交点を  $B_3$  とする。

$$A_2A_3 < A_2B_3 + B_3A_3 < A_2B_2 + B_2B_3 + B_3A_3$$

であるから,  $Q$  が  $C$  の(周および)内部にある別の凸  $n$  角形で  $Q$  より周の長いものに帰着される。

$A_1$  を端点とする半直線  $A_1A_2$  と  $A_4$  を端点とする半直線  $A_3A_4$  が  $C$  の内部に交点を持たない限り (ii) の作業を続け, 持つ場合は (i) の変形を行なうことにより, 最終的には円  $C$  に内接する  $n$  角形または凸  $n - 1$  角形に帰着される。円に内接する多角形の場合は, 各辺より両端を結ぶ円弧の方が長いことより,  $C$  の周は  $Q$  の周より長いことがわかる。



結局， $Q$  が三角形の場合に示されれば十分である。

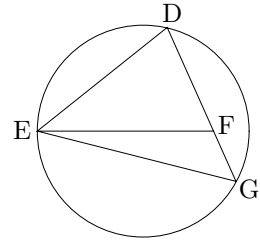
三角形の場合，平行移動させることにより，はじめから2頂点は円  $C$  上にあるとしてよい。円  $C$  上の2頂点を  $D$ ,  $E$  とし，三角形  $Q$  の残りの頂点を  $F$  とする。

$DF$  の  $F$  の側への延長と  $C$  との交点を  $G$  とすると

$$EF < EG + GF$$

であるから，

$$DE + EF + FD < DE + EG + GD < (C \text{の周の長さ})$$



(おわり)